土曜 ライフ・楽しむ

わたし色

美術鑑賞「不要不急」ではない

生活情報誌「悠悠と。」
編集長・真鍋康利

「不要不急」と思われるかもしれませんが、美術鑑賞が好きです。絵画、版画、イラスト、陶芸、写真など素敵な作品を前にすると思わず見入ってしまい時間を忘れることもあります。地方にドライブにでかけたとき小ぶりなギャラリーに寄って、あるじの画家さんと親しくなったこともうれしい思い出です。

本紙の火曜日夕刊に「美術館博物館」の情報が掲載されます。首都圏では予約制をとり、密にならないよう入場者を制限したり、体温測定、マスク着用など厳重な対策をしいたりして開館しているところもありますが、道内の公立施設は臨時休館中のところが多いようです。

美術館や博物館の中ではもともと声高に話す人はいない――中にはたまに大声をだす人もいますが――はずです。また新聞やテレビなどでガンガン告知する有名画家の大きな展覧会以外は、失礼ながらそれほど密になることはないものです。会場の大きさにもよりますが、自然にソーシャルディスタンスがとれているのではないでしょうか。

○　○　○

例年決まった時期に届く案内はがきが昨年今年と、めっきり少なくなり、残念な思いをしています。その中の何人かに電話で、「外出もままならないから創作に集中できますね」とちょっと意地悪な質問をぶつけてみました。

「もともとあまり出かけないので、いつもとほとんど変わらないね」と言う方、「見てもらおうと思うから力が湧く。先の予定がないのでそうはいかない」と言う方、「間違いなく終息するので、どんどん描いているよ」と言う方など様々です。しかしいずれの皆さんも個展が開けないことをとても残念がっていました。

○　○　○

「道展」は今のところ開催が予定されていますが、「全道展」は昨年企画された75周年記念公募がコロナで今年に延期、それも中止が発表され、会員・会友のみの展覧会が計画されています。ただしいずれも会場となる市民ギャラリーが閉鎖となるほど状況が悪化すると、開催は難しいかもしれませんが。

ということで、ネットで美術館巡りをするので行ったことのない美術館に詳しくなりました。また以前手に入れた画集や写真集を引っ張り出して楽しんでいますが、やはり本物を目にしたいですね。実物を前にして作者の思いや創作の意図を聞くのが楽しみです。もちろん声をひそめてですが。早くそんな日常が戻るよう期待してやみません。

美術に親しむのは決して「不要不急」のことではありません。こんな時期だからこそ、心が平穏というか、潤いを求めているのです。